「住民と行政との共働で取り組む逢妻女川でのクリーン活動」の様子

【普及啓発・広報編】 case 06 豊田市（愛知県）

地域が支える流域の水循環

水環境改善の取組を共働・連携により市内全域に拡大

豊田市は、市内の水環境を改善し、次世代へ良好な水環境を受け継ぐために、「地域の水環境への取組が大きな流域の水循環を支える」というボトムアップ型の考えを基本とする「水環境共働ビジョン」を２００９年に策定しました。水循環・水環境に関わる４つの視点（水質、水量、生態系、水辺）から、豊田市の水に関わる現状や課題を住民と共有認識し、身近な水環境を良くするための施策や取組を共働により推進しています。

水環境の改善に向けた住民の意識を高めるため、ホームページや冊子等の広報媒体を活用した普及啓発、森林や川の現場での実体験を通じた啓発と人材育成、また目に見えない下水道への関心を高めるためのデザインマンホールやマンホールカードなどのユニークなＰＲ活動を展開しています。

Profile

【課　題】 水環境
【主　体】 豊田市
【連絡先】 豊田市上下水道局企画課

計画の概要

水環境共働ビジョン
～地域が支える流域の水循環～

これまでの取組

- 1995.3 「豊田市矢作川環境整備計画」策定
- 1996.9 「豊田市環境基本条例」制定
- 2005.4 近隣市町村との合併
- 2009.3 「水環境共働ビジョン」策定
- 2016.6 「豊田市矢作川河川環境活性化プラン」策定
- 2017.4 「流域水循環計画」認定

（2020 ｜ 2010 ｜ 2000 ｜ 1990）

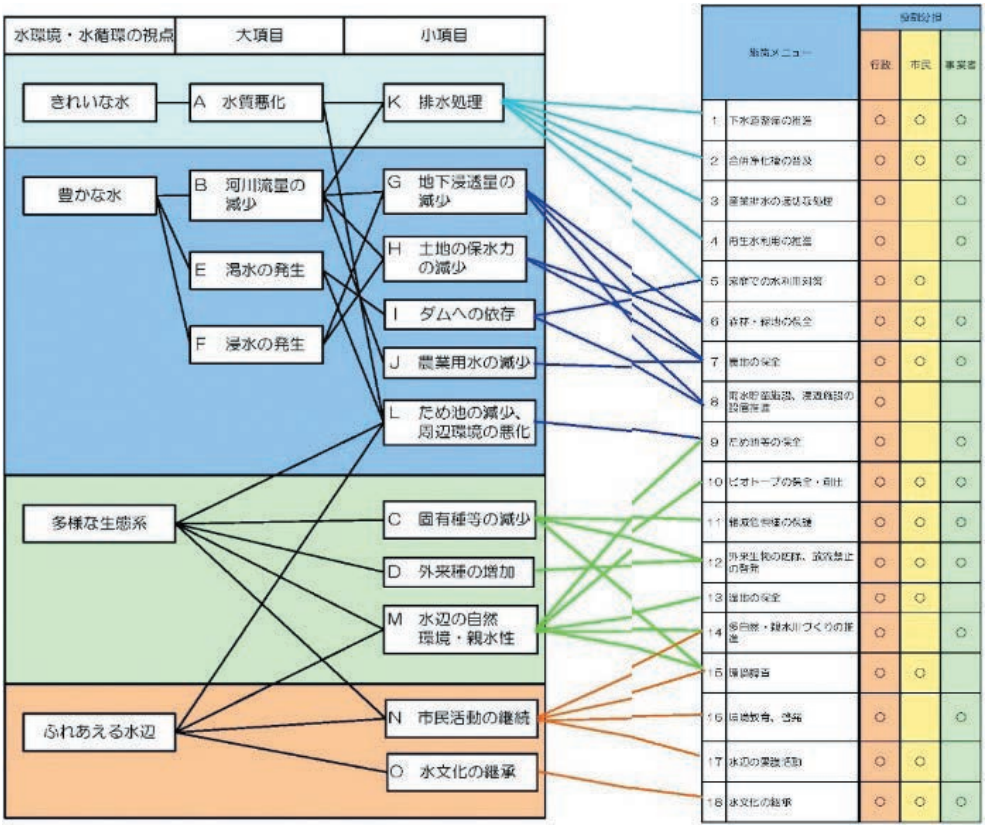
“地域の力”で流域を変えていく

豊田市は愛知県の中央部に位置し、2005年4月の近隣町村との合併を機に、矢作川の上流域も市域となり、市の大部分が1級河川矢作川流域に含まれています。

豊田市は、「地域の水環境への取組が大きな流域の水環境を支える」という基本的な考え方のもと、次世代へ良好な水環境を受け継ぐために、「水環境共働ビジョン」を2009年3月に策定しました。

本ビジョンは、「人がふれあい 生き物をはぐくむ 豊かで清らかな水辺の継承」を目的とし、水循環・水環境に関わる4つの視点（きれいな水、豊かな水、多様な生態系、ふれあえる水辺）から、現状や課題を整理し、具体的な取組として施策メニューや、ビジョン実行の担い手となる行政、住民、事業者の果たす役割を提示しています。

水循環や水環境の改善に向けた活動は、豊田市内の中小河川流域や自治区といった生活に密着したスケールから始め、共働・連携により全市域、矢作川流域に拡大していくことが期待されています。



水環境共働ビジョンにおける水環境・水循環課題と施策メニュー

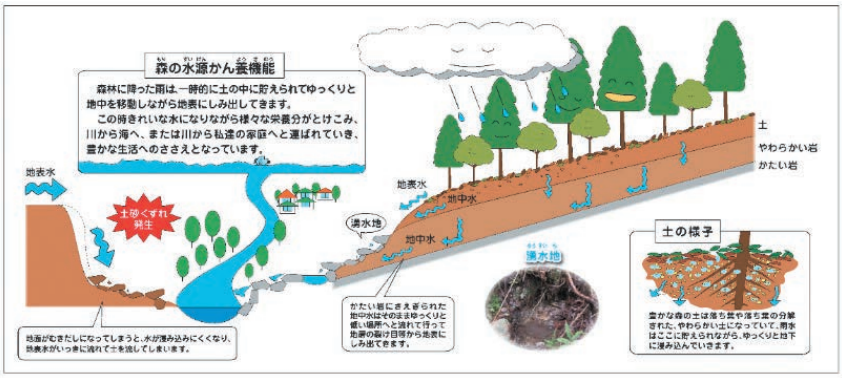
水環境共働ビジョン

流域マネジメント、ここが「鍵」

「鍵」その1 「水道水源保全基金」を活用した水源林や森のかん養機能をPR

水道料金を原資とする全国初の基金として、1994年4月に「豊田市水道水源保全基金」を創設しました。水道使用量1トン当り1円相当額を積立て、水源となる森林保全に充てられています。

主な活用としては、荒れた人工林の水源かん養機能を高めるために間伐を行うほか、水道水源地域の重要性を伝えるために「水源の森」を整備し、間伐効果のPRや豊かな自然を楽しめる散策道を提供しています。



「水道水源保全基金」の仕組と森の水源かん養機能の紹介

「水源の森」学習ひろば

「鍵」その2 キャラクターや教材・冊子等で幅広い層に水への関心を喚起

流域の健全な水循環の構築に向けては、普段何気なく使っている水に対する住民の意識を高めることが大切であり、水道キャラクターの「ぴっちゃん」、下水道キャラクターの「ミカホちゃん」の案内による冊子やチラシ、ホームページを通じた普及啓発に取り組んでいます。

また、ホームページやチラシ等を通じて、水環境の改善に寄与する下水道接続や合併処理浄化槽への切り替えについてもミカホちゃんが呼びかけています。

上下水道キャラクターによる普及啓発

水源の森散策パンフレット

ミカホちゃんによる下水道サポーター認定証書

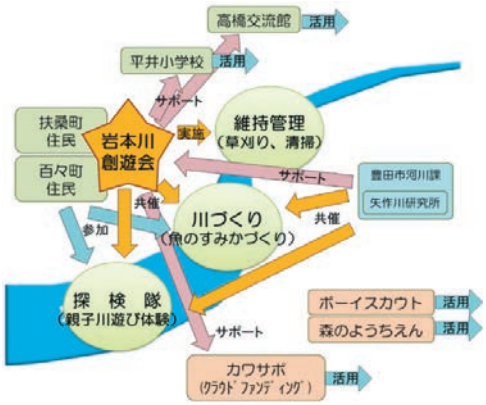
下水道出前講座の教材

「鍵」その3 住民による「ふるさとの川づくり」

「ふるさとの川づくり事業」は、環境が悪化し人々が近づかなくなった市内の小川を、地域住民による多自然川づくりによって、地域に愛される「ふるさとの川」にしていく豊田市の事業です。土砂が溜まりにくく、生きものがすみやすく、親子が遊びやすい小川として再生・維持することを目指しています。

岩本川をモデル地区として、2015年からこの事業による取組が進んでいます。豊田市矢作川研究所が行政の立場で取組のサポート、実施内容の記録、アンケート調査等による住民意識変化の分析などを担いながら、住民懇談会を通じて地域住民が描く川の未来の姿を共有し、川づくりの体験会の開催、地域住民が主役の活動団体「岩本川創遊会」の設立、そしてこの団体による毎月の草刈り、ごみ拾い、川づくり作業、川遊び体験会等が開催されています。また地元小学校の授業と連携することで、地域の子ども達も活動の担い手となっています。

併せて、この事業を豊田市内の他地域へと展開していくためのノウハウや経験を蓄積しています。



岩本川における実施体制

川遊び体験「岩本川探検隊」の様子

豊田市が住民と共働で取り組む岩本川での「ふるさとの川づくり」

流域マネジメント、ここにも「注目」

注目1 ミライを担う若者への意識啓発プロジェクト

地元の豊田工業高等専門学校の4年生を対象に、2018年度から上下水道に関し、上下水道局職員が講師となり授業を行っています。講義内容は、上下水道事業に関する歴史、計画、工事、経営等、幅広いテーマを取扱い、期間としては約半年間にも及びます。

講義を通じた上下水道事業の普及啓発への参加は、特に上下水道局の若手職員にとっては業務に対する意識向上に貢献し、若手職員同士の勉強会が発足するなど波及効果も生まれています。

その他にも、小学4年生を対象とし、水循環の大切さを伝える「下水道出前講座」の実施や小学生とその親を対象とした水循環を体感する取組「上下水道親子探検隊」を夏休み期間中に行っています。

豊田市上下水道局職員による授業
（上：講義風景　下：上水道施設見学）

注目2 アカミミガメ防除プロジェクト

ミシシッピアカミミガメは、北アメリカ原産の外来種で、ペットとして持ち込まれた個体が捨てられ、野外で増えており、水生植物・農作物の食害などの悪影響が懸念されています。

豊田市は、2016年より環境省が推進している「アカミミガメ対策推進プロジェクト」に参画し、逢妻女川と逢妻男川の市域区間を対象に、住民と企業・大学・行政が連携してアカミミガメ防除に取り組んでいます。

また、これまでの活動成果を「地域のみんなで身近な自然を育むために～アカミミガメ防除マニュアル～」としてとりまとめ、外来種対策の必要性、アカミミガメの捕獲方法や作業する際のポイント、カメの見分け方、地域での取組事例などを紹介し、地域住民に対し外来種防除の啓発を行っています。

アカミミガメ防除マニュアル

注目3 プレート式デザインマンホールでワクワクする下水道を演出

下水道の見える化と、歩いて楽しい歩行空間演出を目的に、名鉄豊田市駅から豊田スタジアムの間に「プレート式デザインマンホール」を22箇所設置し、地域住民や豊田スタジアムを訪れた市内外の方々に人気となっています。

デザインが簡単に交換できるという特徴を活かし、季節やイベントに合わせて不定期にデザインを変更し、「ワクワクする楽しい下水道」を住民に伝える工夫をしています。

プレート型マンホール

注目4 災害備蓄用飲料水「とよた水物語」

豊田市上下水道局では、ペットボトル水「とよた水物語」を販売しています。このボトル水は、市内浄水場で採取した水道水を活性炭フィルターでろ過し、加熱処理をした上で密閉しているため、常温で長期保存が可能です。

豊田市では、飲料水の備蓄として「一人3リットルを3日分（9リットル）以上」を住民に呼びかけ、ホームページやチラシ、また上下水道施設の施設見学会等での配布を通じて、水道水のおいしさと防災の両面からPRしています。

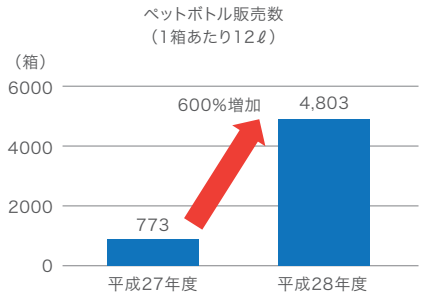
災害備蓄用ペットボトル水『とよた水物語』

活動の効果

備蓄用ペットボトル水「とよた水物語」が大好評

大規模地震や風水害などの自然災害により上水道施設への被害が危惧されます。万が一の断水に備え、豊田市上下水道局では、2013年度から5年間保存可能なペットボトル水「とよた水物語」を販売しています。ただ、販売開始当初は売り上げが伸びず、市民の備蓄率がなかなか向上しない状況が続きました。

そこで、2016年度に備蓄率向上を目的としたプロジェクトチームを立ち上げ、これまでに培ったPRやマーケティング手法を活用することで、前年比600%の売上増加を達成することができました。

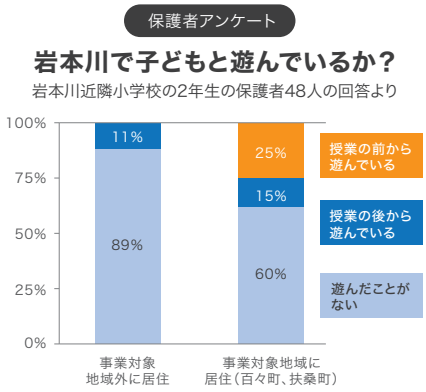


「とよた水物語」販売数の変化

ふるさとの川づくりの効果

地域住民による川づくりが進んだことで、人を寄せ付けなかった岩本川は遊びやすい川となり、近くの小学校の授業でも川が活用されるようになりました。岩本川での授業を本格的に始めた年の保護者アンケートでは、子どもが授業を受けた後に、親子で岩本川に遊びに行った家庭が1割超おり、岩本川での授業が身近な自然体験機会の創出につながることが示されました。

さらに、この年の学芸会では授業を受けた2年生が、地域の伝承と岩本川での川づくりを題材にしたオリジナルの劇を創作・披露するなど、ふるさとの川づくり事業によって地域愛着が醸成されています。



岩本川近隣小学校の保護者アンケート結果

メッセージ

豊田市上下水道局企画課
久保 剛さん

取組を伝え広げていくポイントは？

水環境の取組は、市民と地域の環境や将来を楽しく考え、地域が抱える課題をともに解決し、市民とふれあい、地域の水環境を共有することが大切です。水環境に関する市民活動を発信することで、新たな地域での活動に拡がっていくと考えています。

今後に向けて

今後は、国土交通省が提唱している「下水道の市民科学」という新たな視点を取り入れ、地域住民と連携し、新たな下水道の価値を発見できるよう下水道の普及啓発を進めていきたいです。

メッセージ

豊田市矢作川研究所
※現所属　豊田市環境政策課
山本 大輔さん

取組を伝え広げていくポイントは？

川や生き物そして人に関係する事象はひとりひとりの経験や知識により考え方が異なる場合もあります。しかし、川に関する取組は様々な人々と力を合わせて進めていくため、みんなで納得することが重要です。そのため、きちんと記録をとり、科学的なデータを共有していくことが鍵となると考えています。こうして積み上げた根拠は、さらに新たな取組へとつながっていくと考えています。

今後に向けて

川と人の関わりにおけるミライのフツーは昔の姿への回帰ではないかと思っています。暮らしの中で川や水を使うからこそ、尊敬や愛着の気持ちを持って、手入れが行われていたのでしょう。ですから、川で遊んだり自然を再生したりと、分かりやすく川と触れ合うことを通して、身近な小川が再び地域に愛され育まれる“ふるさとの川”へとなるように支援を続けていきたいです。